

市指定 千人塚古墳 22年ぶりに石室開く

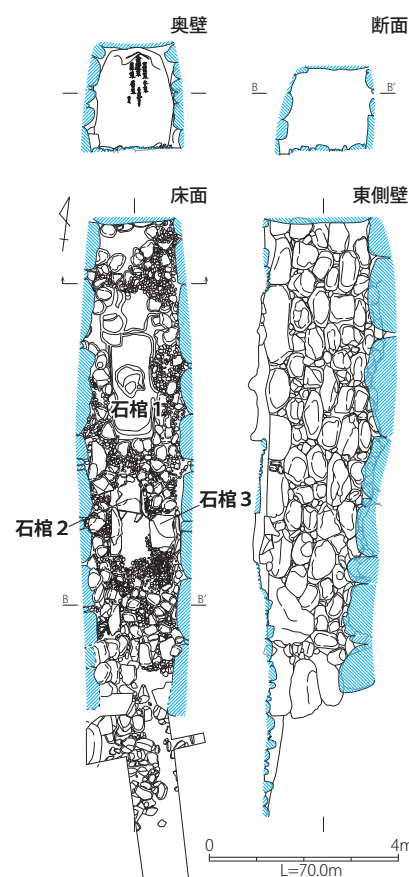
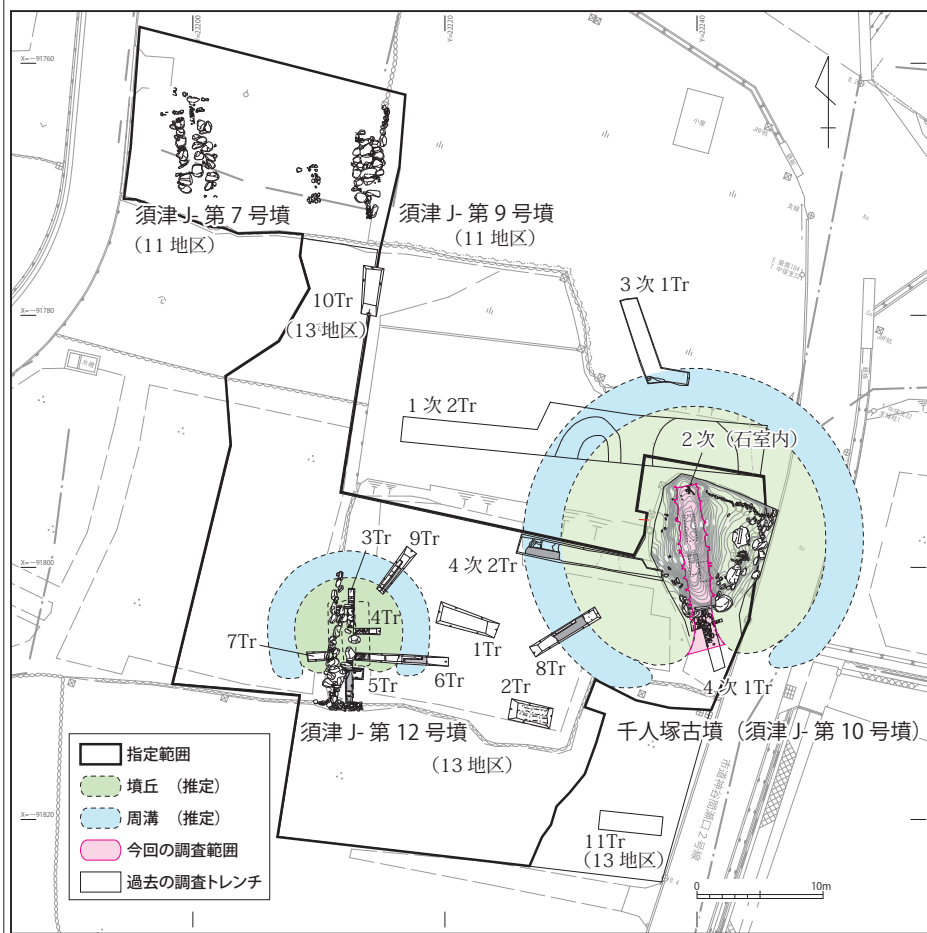


うだるような酷暑のなか、市内須津地区を中心とする古墳文化への視線の熱量も最高潮に達しようとしている。市指定史跡の千人塚古墳では、六月に指定範囲の変更があり、地中に残る周溝部分のほか、周囲に現存する須津J第七・九・十二号墳が新たに追加指定された。七月からは千人塚古墳を末永く保存するため

保存整備工事と調査始まる

調査が始まっており、二十二年ぶりに静岡県東部最大級の横穴式石室（全長十一・四m以上）の全容が明らかになりつつある。今回の発掘調査では、過去の調査で未回収であった副葬品の発見も期待されており、石室内の床面から新たに大刀の飾金具などが検出されている。

認や古墳の現状の詳細な記録と測量を実施した上で、修理や盛土、園路整備などの工事へと進み、令和七年度中の公園オープンを目指す。今夏はさらに富士川楽座での古墳展示（八月九日〜九月八日）、秋には国史跡・浅間古墳のシンポジウム（十月十九日・交流プラザ）も控えており、まだまだ「古墳熱」は冷めやらない。



これまでの調査区と千人塚古墳の石室展開図